

講義名	対)カウンセリング			
担当教員	綱直 優子			
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考

主題と概要				
<p>カウンセリングは、対話を中心に行われる心理的援助を目的とするものであり、病院、カウンセリング機関、企業、学校や福祉機関など様々な領域で用いられている。同時に、カウンセリングが必要とされる応答技法は、心理的援助だけでなく、接客や日常生活におけるコミュニケーションの基礎としても活用可能である。</p> <p>本講義では、カウンセリングに必要な基本的知識と技法を解説する。また、カウンセリングの実践を学んでいただくために小グループに分かれての簡単な実習を行う。特にどのような姿勢で相談を受け、どのように受け答えをしていけばいいのかについて重点的に学習をしてもらう。</p> <p>後半では、個人が成長するために集団においてどのようなアプローチを用いることが可能であるか学習してもらう。また、産業現場でのメンタルヘルスの問題について紹介し、どのようなカウンセリング対応がなされているのかについて学習してもらう。</p>				

到達目標				
<p>【対面授業】この科目は、「対面型」で実施します。到達目標の達成のためには、授業形態や扱う教材等の関係上、対面型での授業が望ましいためです。「オンデマンド型」ではありませんので、時間割通りの時間帯に指定された教室で授業に参加してください。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生には、受講方法について、個別にメール連絡しますので、メールの確認を忘れないようにしてください。</p> <p>カウンセリングの現状について理解できるようになる。 初回面接の仕方について理解できるようになる。 初回面接の報告書が作成できるようになる。 カウンセリングの基本的な技法を使って話を聞くことができるようになる。</p>				
提出課題				
<p>毎回の授業で課題を提出する。 課題内容については、その都度説明する。 課題提出方法については授業内で説明する。</p>				

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック				
<p>学生の希望に応じて行う。</p>				

評価の基準				
<p>毎授業の課題（50％） 中間レポートと最終レポート（50％）</p>				

履修にあたっての注意・助言他				
<p>本学は講義の後半はグループワーク中心の授業であるが、対面授業ができなかった場合は、各自が課題を仕上げて提出する形をとるので、グループワークで学習したい学生は、来年度に受講することを勧めます。</p> <p>本授業では毎授業で課題を出しますので、一つでも提出を忘れると、単位を取得できない場合がありますので、気を付けてください。 中間レポートと最終レポートを期日内に出せなかった人は、単位取得できません。</p> <p>全学的に対面授業が行えなくなった場合には、講義連絡を通じ連絡を行います。</p>				

教科書				
.使用しない。				

プリント資料及び参考文献				
<p>必要な資料を適宜配付する 【参考文献】 心理学マニュアル 面接法 保坂享・中沢潤・大野木裕明 編 北大路書房</p>				

授業計画				
<p>第1回 カウンセリングの基礎知識 第2回：初回面接の基礎知識 第3回：初回面接の実際 初回面接における観察視点 第4回：初回面接の実際 情報収集のスキル 第5回：初回面接の実際 報告書作成 第6回：基本的応答技法 クライエントの話を理解する 第7回：基本的応答技法 聞かれた質問と聞かれた質問 第8回：基本的応答技法 応答する際のポイント 第9回：基本的応答技法 感情、内容の反射 第10回：基本的応答技法 いいかえ、感情の明確化 第11回：基本的応答技法 基本的応答技法を使用した実習 第12回：自己成長のための集団アプローチ 集団アプローチの方法 第13回：自己成長のための集団アプローチ 集団アプローチを使った実習 第14回：産業現場での諸問題と相談援助活動 産業現場でのメンタルヘルス問題 第15回：産業現場での諸問題と相談援助活動 産業現場でのカウンセリングの実際</p> <p>授業計画は受講者の要望と修得状況に応じて変更を加えていく。</p>				

授業形態（アクティブ・ラーニング）				
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク	
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク	
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
<p>本授業では、復習を重点的に行ってほしい。 各回のテーマに沿って下記の予習・復習を行うこと 予習：「来客中心療法」「絶対帰郷」「心理初回名節」などの書籍に目を通しておくこと（予習時間：1時間） 復習：授業の中で説明した理論について、配付資料やノートを見直し、ノートにまとめ直すこと。また、授業内で応答技法のワークシートに取り組んでもらったり、事例の説明を行うが、再度自分でノートにまとめ直すこと。授業内で「基本的な応答技法」について実践的に取り組んでもらう場合があるが、各自、渡された練習問題を復習として取り組み、確実に応答技法を身につけていくよう心がけること。（復習時間：3時間）</p>				

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
<p>到達目標 を達成することで、ディプロマポリシーの「人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造すること」や「コミュニケーション能力を身につけ、それらを、ビジネス、援助に実践的に活用すること」や求める「人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面 で心理学を応用すること」に貢献することができる。</p>				

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				

実務経験の有無及び活用				
<p>「実務経験あり」 授業で学んでいただくカウンセリングの基本的なスキルを、病院臨床のカウンセリングにおいて活用している。</p>				

備考				